

「IT 事件史 1982 年の IBM 産業スパイ事件」を読んで

【本ページの参照元：2018.4 の下記のブログ】

「IT 事件史 1982 年の IBM 産業スパイ事件」を読んで
(<http://www.1968start.com/M/blog/index.html#1804b>)

日経の XTECH の記事：

「IT 事件史 1982 年の IBM 産業スパイ事件、認知されたソフトの重要性」
(<http://tech.nikkeibp.co.jp/atel/nxt/column/18/00215/032200001/>)

を読んで、当時の日立の研究所勤務時代の思い出話を記述する。

なお、当時の私の業務はメインフレーム関連ではなく、制御用コンピュータ関連だったので、直接の影響はなかったが、いろいろ間接的な影響はあった。

【本事件に関連する思い出】

(1) 最初のニュース

1982 年 6 月だった。1 年前に配属された新人の研修発表会終了後の飲み会の最中に店内の TV に、社内の技術者が米国で産業スパイとして逮捕されたニュースが流れた。その後、社内では海外からの技術情報の入手に関する規則が厳しくなった。

(2) 事例 1：外国の技術資料の廃棄

その後、外国から入手した技術資料に関し、事務担当部署から廃棄指示があった。私の廃棄資料の中で下記の資料が記憶に残る。

・ Mesa マニュアル

Mesa ([https://en.wikipedia.org/wiki/Mesa_\(programming_language\)](https://en.wikipedia.org/wiki/Mesa_(programming_language))) は、当時、私がモジュール化機能を有するプログラミング言語として調査対象としていた、Xerox 社のパロアルト研究所で開発されたもの。

1978 年 10 月に第 3 回日米コンピュータ会議 UJCC での論文発表 (<http://www.1968start.com/M/paper/1978UJCCchusho.pdf>) のためにサンフランシスコを訪問したときに入手したもの。

1979 年 1 月には学会誌の下記の解説論文で Mesa を紹介している。

・ 中所：プログラムのモジュール化技法、電子通信学会誌、62, 1, 91-94 (Jan. 1979)
(<http://www.1968start.com/M/p2/7901chuModule.pdf>)

(3) 事例 2：外国の技術資料入手時の手続き

1983.5 に、米国アナハイムでの国際会議 National Computer Conference NCC' 83 での論文発表 (<http://www.1968start.com/M/paper/1983NCCchusho.pdf>) のために海外出張し、学会終了後にコーネル大学で構造エディタを試作している研究室を訪問した。

訪問先の教授は不在で、博士課程の学生がデモを見せてくれた。デモ画面を背景と一緒に写真を撮りたいというと、学生からこの写真を商業的に利用しないね、と念を押され、私個人の記念に撮ることで OK でした。さすが「これが米国」という印象を受けた。(^^)

この時、IBM 産業スパイ事件以降の海外の技術資料入手時のルールにしたがい、訪問先の研究発表資料をもらうときに、お礼を述べるだけでなく、この資料には第三者の権利を侵害する内容はないという書類にサインしてもらった。(^;;

1983 年 6 月には学会誌の下記の解説論文で Cornell Program Synthesizer を紹介している。

- ・ 中所：プログラミング言語とその会話型支援環境、情報処理, 24, 6, 715-721 (June 1983)
(<http://www.1968start.com/M/bio/ipsjpaper/chu83aipsj.pdf>)

(4) 事例 3：外国の技術資料のパブリック性のチェック

数年後（1980 年代後半）の第 2 次 AI ブームのときには、我々の研究試作システムのなかに外部の技術が紛れ込んでいないかのチェックの一環として、事務担当部署からの要請で、下記の資料について、入手経路を明確にする必要が生じた。

- ・ エジンバラ大学の論理型言語 Prolog の処理系の技術資料（下記の（注）参照）

本資料は、1983 年 9 月にパリでの第 9 回世界コンピュータ会議 IFIP' 83 での論文発表（<http://www.1968start.com/M/paper/1983IFIPWCCchusho.pdf>）のために海外出張し、

学会終了後にエジンバラ大学を訪問したときに入手したものだ。結局、エジンバラ大学の技術資料に関する価格表と領収書が残っていて了解された。(^;;

（注）4/14 の初版では、1986 年の IFIP' 86 の時と記載したが、4/24 に、1983 年の IFIP' 83 の時と判明したので、訂正。

以下は海外出張報告書（1983. 10）に添付した海外出張入手資料リストの記載内容：

- ・ D. L. Bowen 他（エジンバラ大学）：A Portable Prolog Compiler
- ・ エジンバラ大学：AI 学科の購入可能文献リスト

(5) 事件のネーミング

当時、事件名として、被害企業の名前が付いたが、加害者側の企業名が付かなくてよかったという話があったことも記憶に残っている。

以上